

戦争・被曝・外注化絶対反対! 命と生活を守る動労総連合へ!

動労水戸

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三
 発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史
 電話 029・227・6020
 FAX 029・227・6291

安倍政権の戦争政策に 高まる危機感と怒り

私たちが日々の仕事や生活に追われている間に、破壊の道に導く動きが強まっています。安倍政権は「特定秘密保護法」などで国民への監視を強め、「新捜査手法」で「密告」を奨励し、世界中のどこでも戦争ができる法案を閣議決定しました。また同時に「労働者派遣法」が変えられ、外注化による正規から非正規雇用への転換が無制限に拡大されようとしています。そしてJR東日本はこの安倍政権の先頭に立って原発事故をも

み消し、20年の東京五輪に向けた常磐線の全面開通を宣言しました。労働者に貧困を強制し、生活のためとして被曝を強制的に送るといいます。これは現在のアメリカ社会の現実であり、かつて戦争で安倍の祖父の岸信介たちがやったことです。

太平洋戦争では3千万人も言われるアジアの人々、310万人の日本人が死にました。沖縄では20万人、広島・長崎の原爆投下では5年間で37万人の人々が亡くなっています。安倍は、この戦争と被曝の歴史も無かったこととして、再び同じ道を強制しようとしています。沖縄・広島・長崎・福島をはじめ全世界の人々が怒りの声を上げています。今こそ労働組合がその先頭に立つときです!

みなさんも知っているように、福島第1原発の事故は全く収束していません。また、あと何年たてば復旧できるかの見通しもありません。そもそも東海原発の廃炉作業でさえもめどが立たないのです。原発稼働によつて日々増え続けている放射線物質の保管場所もなく、放射能の影響が消えるまで半永久的に管理しなければなりません。現在だけでなく未来のことを考えるなら、原発も再稼働もありえないことです。

核兵器獲得のための 原発再稼働と被曝隠し

生命の根源はDNAの複製にあります。そのDNAの鎖を断ち切るのが放射線です。東海村JCO臨界事故の被害者のように、被曝線量が高いと細胞の再生ができず皮膚も内臓も溶けて全身から血を吹き出しながら亡くなります。では低線量なら問題はないのでしょうか? DNAの連鎖を絶ち切るのと同じです。広島・長崎の被曝者のようにいつ影響が出てくるかわからないのであり、安全だなどという根拠は全くありません。

経済的にもクリーンでもない原子力を維持し続けるのは、やはり戦争のためです。核兵器は「究極の破壊兵器」だからこそ、原発と核を持つ全ての国々の企業と政治家が真実を隠し「放射能被害の影響はない」と言い続けています。そして「危険だと騒いでいるのは知識のない連中」と決めつけ、実際に事故や被害が起きれば「想定外」で言い逃れる。さんさん見せられてきたことなのに、他人の苦しみには「目先の利益」のために目をつぶってしまうのがこれまでの労働組合の大半でした。しかし、労働組合は本来は目先の利益のためでなく人を大切にして仲間を守るためにあるのです。

被曝労働・外注化に対し 絶対反対で団結しよう

4月1日からJR東日本は常磐線全線開通のために避難区域での「復旧作業」を命じました。まず労働者に行かせ、鉄道を通し、住民を帰還させる。危険があるうが、国や会社が決めたことはやらせる。戦争とまったく同じです。「会社に手当を出させたことが成果」と主張する国労、その権力を握っている共産党・社民党は、手当が出るなら戦争にも行かせるのか。

私たちは、原発労働者も含めて被曝労働には絶対反対です。JRはまた、全面外注化も猛然と進めています。保守部門・検修・構内外注化で脱線事故が続発し、山手線で電柱が倒壊した矢先に東北新幹線の架線が切れる。郡山総合車両センターで検査した車両は故障が続発し、分社化された列車製造部門の新車も欠陥だらけです。「ATOS」で数千回シミュレーションしたという上野東京ラインも「想定外」の遅延や運休が続発です。

「富田社長は「安全の神様頼み」のようですが、技術は人間が共同して生み出したもの。結局は人間に支えられて生きるのです。労働者を無視した技術も安全も絶対に成り立ちません。動労水戸は、能力や技術を過信した者たちの安全と命の軽視と徹底的に闘います。

時代は歴史の分岐点にきています。照沼君、羽部君、會澤君と団結し、動労総連合に結集し共に闘おう!



3万5000人が「辺野古新基地建設阻止」を訴えた沖縄県民集会(5月17日)



ゼネストで基地撤去を!と訴える照沼君(5月17日)

〈今後の予定〉

6月7日(日)12時30分
国鉄闘争全国運動
6・7全国集会
 東京・日比谷公会堂

6月13日(土)
拡大執行委員会